

酒々井町

郷土研究会会報

第98号

平成12年10月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

B 29 撃墜される

桜井徳三

一九四五年(昭和二十年)一月二十八日午後二時頃酒々井町伊篠にアメリカ陸軍長距離爆撃機B 29が撃墜された。

私は現東京学館高校の近くで、馬を連れて母と二人で薪とりをしていた。帝都東京を空襲して銚子方面上空より東方海上に出て南太平洋の基地サイパン島へ帰るはずだったと思われる編隊飛行中の一機が東京方面上空で高射砲による砲撃か、日本の飛行機との空中戦での銃撃か、被弾した為の上岩橋方面より、胴体の中程から火(炎)を吹きながら七八百メートル程の高度で飛んで来た。間もなくB 29が右旋回し始めた。とてつもない大型機にビックリ。高度を下げながら二回半程旋回して半径三・四キロ位の円を描くように回

って空中分解、バラバラと片翼と胴体と分かれたように見えた。すぐ上の山(今の東京学館高校の駐車場)へかけ上がってみると自分の家の方角(東方)で国鉄の線路か白幡神社付近だと思い、馬に飛び乗ってもうとうと黒煙が上がっている現場へ行った。すでに兵隊が三・四十人来ていた。後日聞いたところによると会田さん(顧問)が初期の指揮をとられていたたそうである。

上空には日本のゼロ戦が旋回していた。撃墜を確認したのか東京方面に消え去っていった。間もなく憲兵が数人きて何やら話をしていたので覚えている。三十分位後には見物人が大勢集まり来て大騒ぎになった。私は家へ帰って警防団(消防団)の半天を着て鳶口を持って駆け付けた。飛行機の本体が物凄く勢いで燃え盛り機関砲の弾がまるで花火のようにボンボンと飛び散り近くへはとも近寄れない。兵隊も手の出しよう

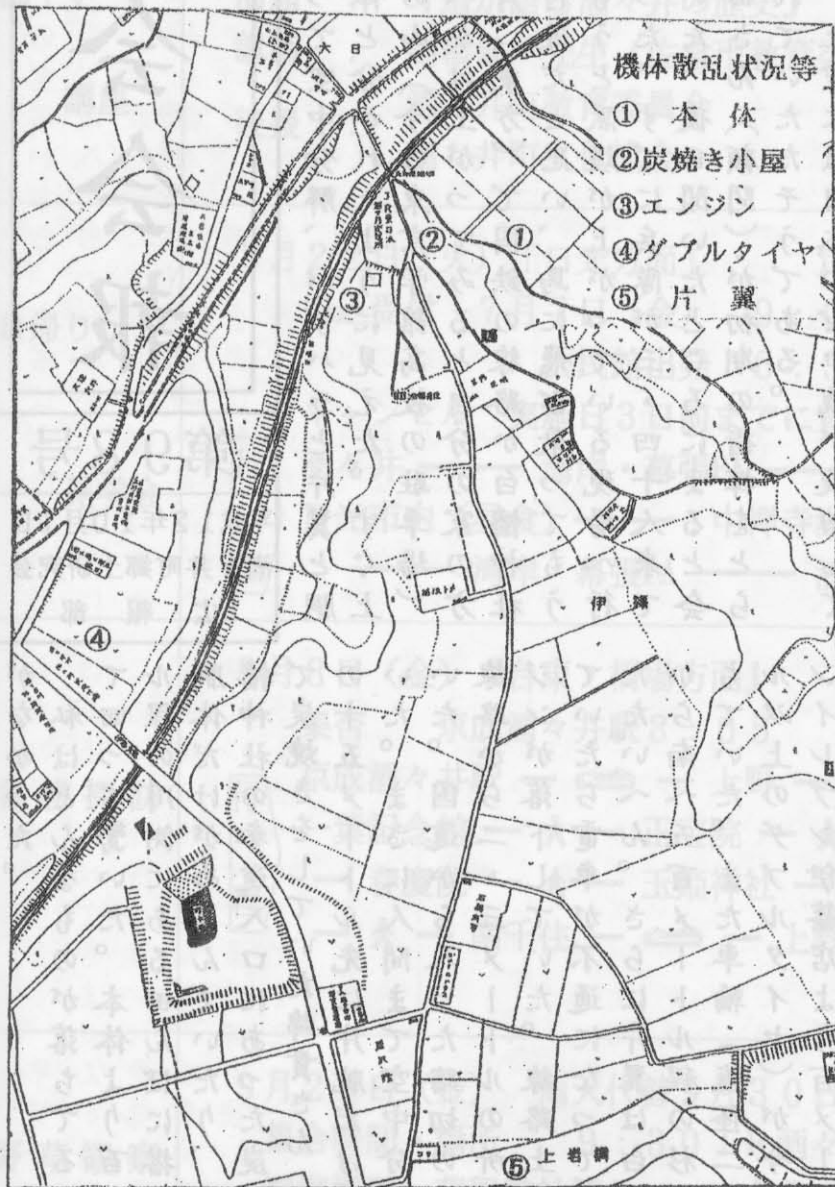
がなかった。

私はどんなものが落ちてくるかを見て回って驚いた。本体より百メートル程の川側にある田んぼに搭乗員の胴体だけがめりんでいた。当時白幡神社の参道入口にあった炭焼き窯で炭焼きをしていた綿貫さん(故人)の十五メートル先に片腕だけ落ちていた。まさに人間まで空中分解していた。国道から入った踏切の近くに線路から二・三メートルの所にエンジンが落下していた。線路上に落ちていたら電車が不通になってこれまたたいへん。さらに片翼は白幡神社から南へ五百メートル程の杉山へ落ちていた。また車輪(直径二メートル以上のダブルタイヤ)が今のセブイレブン伊篠店より百メートルほど成田よりの私の家の畑と山の境に落ちていたがこれまた大きいのにビックリ。こうして白幡神社を中心に約五百メートル四方に落下が散乱したが人家、農作物等に被害はなく、ただ杉山の木五・六本と桐の木が一本折れただけ。本体の落ちた所は竹やぶだったので竹が数十本折れたぐらいで白幡神社の御加護のお陰、有り難いと思つた。

昨日何人かで「明日朝早く来よう」

と相談してあつて七時三十分頃行つてみると十五・六人は来ていた。兵隊・警察は何人か警備していたようだ。見物人は多くなるばかり。当時は皆歩きで酒々井はもとより成田・佐倉・富里など近隣市町村から人が集まり、よくもこんなにと感心するやら驚いたりだ。

まだ燃え続けた火は少しは下火になつたがまだまだいやな臭いがしたので憲兵隊は「このまま何時までも燃やしておくわけにはいかない。燃やせる物は早く燃やして何とか火を消すように」といつていた。七名程の搭乗員の死体は火葬にするしかない。米兵は丸首シャツ一枚しか着ていなかった。バラバラの死体もあつて嫌な思い(オンボ屋)をした。珍しい物ばかり、機関砲の弾丸(十二ミリ)があるわあるわ、二十リットル缶で計つたら何杯もあつたがどう処分したのかわからない。弁当箱だらうか昔婦人方がつかつてた裁縫箱みたいな縦・横・高さ三十センチぐらいの引き出しのついたケースにバター・チーズ・ジャム・肉・魚も入つていたが食い散らかしてあつた。一機の乗組員は十一・二人だと聞いた。



でも東京方面から飛んでくる途中でパラシュートで脱出した兵が二・三名いたらしい。臼井あたりで田んぼに降りて捕虜になつた兵もいたと聞いた。

車輪が落ちた山は、見物人が大勢歩いて草を踏みつぶして何本もの細い獣道ができた。見物人は一週間に上続いた。

B 29の残骸は当時中川にあつた三

・四軒の馬力屋が馬車で酒々井駅へ運んだと聞いた。チエーンブロックで吊り上げて乗せたのでしよう。後日徴兵され復員して来た時はなかつた。B 29墜落現場は戦後アメリカMPが作業員と何日間も探索し残物を拾い集めたようだ。

現在の伊篠は当時のたいへんな出来事を忘れたように日々穏やかなたずまいを見せている。

酒々井町・聞き書き

加川治良

昔話だといつてもね、江戸時代の話じゃあないんで、関東大震災前後のほんの七十年前の昔話です。今こんな結構な時代では考えられない大変な不景気で歌にも「枯れすすき」つてのがあります。

今では孫らと遊ぶ好好爺になってますし、なくなつた人もいますがね土地柄宗吾様の話なんか聞いて育つたもんで血の気が多いのか、小作争議つてのをやりましたな。

大正十三年(一九二四)日本農民組合が八街に結成されましたが酒々井町から二人駆け付けました。支部員が十五・六名だったと思います。その年の十月に日農千葉県連合会準備会が酒々井町で開かれ、理事長に酒々井の人が選出されました。

十四年二月になると日農千葉連合会支部長会議を酒々井町で、千葉県連合大会を宗吾様の宗吾霊堂で開くことになりました。もつともこの大会は都合で会場変更がありました。が県下支部員四百名が集まりました。

三月に入ると日農の各支部が結成されまして、印旛郡では酒々井町を初めとして七支部ができ、それまでは酒々井町にあつた事務所を大森町に移しました。

第二回県連大会は十一月でしたが支部数四〇、組合員千九百二十九名まで大きくなりました。まあ時代の流れでした。

その頃になると政治運動のゴタゴタが続くわけなんです。執行委員には酒々井の人が頑張っていました。昭和三年(一九二八)頃にはゴタゴタしていた農民運動体も合体して全国農民組合千葉県連になります。酒々井町支部は二十三名、県連の全人員は千八百十三名といわれています。

弾圧も凄いいもんでした。地主の家までデモをやり十三名が騒擾罪で検挙されて起訴されたことがあります。が、まあ若気の至りつてとこですかね。

また税金闘争・無産者診療所とかいろいろやりましたな。時代は戦争体制に傾いていったわけですが戦争の一原因は農村の貧しさだとも言われています。当時の農民の生活はひどいもんで小作争議の一つ二つはや

りたくもなります。当時の話を聞き書きしておくのも大事なことだと思います。

こんな状況下でもまあ地区は同じだし顔を合わせれば挨拶もするし喧嘩ばかりぶつてた訳ではありませんよ。酒々井は、むかしから俳句が盛んで一ひねりする宗匠がたくさんいました。それで句会なんかやるんですけど句会では地主も小作もありやあしません。皆で「古池やあー」

つて投句合わせする訳で、ずいぶん変な話だけと本当の話つまりなんて言うのか、つき合いは違うですね。じいさんになると長話の話相手が欲しくなります。もう一杯淡茶を呑んでつてください。

※「参考引用・千葉県における大正・昭和期の農民運動について 中村政弘(成田市史研究) 千葉県史・大正昭和篇他」

去る八月三十一日、この寄稿を最後に永遠の眠りにつかれました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます
合掌

郷土史講座を聴いて

木家 勝

八月二十日「道が語る酒々井の歴史」というテーマで高橋健一氏の講演を聴講いたしました。私は平成八年から上本佐倉一丁目に住みついた新しい町民です。数年間生活してみても、その印象は「水田と森林に恵まれた住み心地の良い町」「交通の要衝であり、道路・鉄道に恵まれている町」というところですか。

そういう観点から、「道」をメインテーマとする本講演を興味をもって聴きました。

内容は、旧石器時代から近世までと盛り沢山の内容でありましたが、ほゞ私の想像していたような事柄が実証的に説明され、納得のゆくものでありました。洋の東西を問わず、およそ道というものは、地形、水系によって自然に形成され、それに人為的条件が加わって、次第に発展し、あるいは衰退してゆくものだと思います。

そういう考え方に立って、私は千葉氏の盛衰がこの地酒々井の歴史に

決定的な影響を及ぼしているように思います。

その点については少し勉強してみたいと思います。

ともあれ、酒々井町の持つ価値、とりわけ交通の要衝としての価値は現代においても揺るぎないものであり、それは古代からの人々の知恵の伝承ともいえるものだと思います。そういう思考をもってこの町の未来が語られることを希望します。

日光方面見学会に

参加して

平嶋達夫

日光といえは東照宮の陽明門しか念頭にない私はNHKの葵三代のドラマを背景に今回家光公が埋葬されている大猷院廟初公開に大変興味を覚えました。洋の東西を問わず、およそ道というものは、地形、水系によって自然に形成され、それに人為的条件が加わって、次第に発展し、あるいは衰退してゆくものだと思います。

おぼえ、郷土研究会主催の勉強会に初めて参加しました。八月二十二日早朝、総勢四十二名で昨年世界遺産に登録された日光へガイドさんの名調子の案内で一路向かいました。奈良時代末期、勝道上人の開いた四本

竜寺二荒山神社が起源とされ、江戸

日光二荒山神社

中宮祠



見学

案内

日帰り見学会

十一月八日(水)雨天決行

房州方面

紅葉には少々早い自然を楽しみながら館山市方面の史跡を訪ねる。

那古寺(那古観音)は坂東三十三観音霊場の第三十三番結願札所で、元正天皇の悩みをいやすために行基が養老元年(七一七)に那古の海から霊木を得て、千手観音を刻み開基。銅造千手観音(国重文)は鎌倉前期の作といわれる。

館山市の城山公園は里見氏九代義康が天正十八年(一五九〇)に築いた平山城のあったところ。山頂に建つ天守閣型資料館には里見八犬伝の資料があり別館の市立博物館は里見氏に関する資料が展示されている。常楽山満徳寺(釈迦涅槃佛)は館山市藤原にあり昭和五十七年(一九八二)、長さ十六メートルの日本一といわれる涅槃佛が一人の信仰で建立された。



石堂寺は丸山町石堂に神龜三年(七二六)行基により開基されたと伝えられ室町末期に小弓公方足利義明の孫・足利頼氏を養育し、その幼名石堂丸に因み寺名としたといわれている。天台宗で本堂と薬師堂、木造十一面観音立像、多宝塔、旧尾形家住宅が国重文となっている。

名勝探訪

十二月六日(水)

雨天代替十二月八日(金)

深川・木場方面

何かとせわしい時期ですが、古きよき下町情緒が生きている深川周辺を散策しましょう。

門前仲町駅近くの昔ながらの店が並ぶ参道を通って深川不動尊から出発し、富岡八幡宮、モダンな建物の東京都現代美術館、緑豊かな清澄庭園、江戸六地蔵の一つ霊巖寺、萬年橋を渡り、新大橋と清洲橋がのぞめる隅田川のほとりに好んで庵を結んだ芭蕉庵跡や芭蕉記念館等を拝観して、家路につきたいと思えます。

郷土研日誌					
月日	内容	数	月日	内容	数
6/28	印刷	5	8/25	編集会議	6
29	発送	20	9/1	研修下見	3
7/1	史談会	17	2	史談会	16
7	日帰受付	8	3	運営委員会	21
18	古文書学習	11	4	名勝資料作	2
8/14	日帰資料作	3	7	編集会議	5
15	古文書学習	10	8	名勝探訪	15
20	郷土史講座	97	19	古文書学習	8
22	日光方面	42	22	野草下見	6
23	研修部会	12	22	編集会議	7

会計報告	
日光方面 H 12.8.22	
収入	7500円×42人 = 315000円
支出	(株)八街観光 294060円
	諸雑費 11900円
	追加(拝観料) 11070円
	317030円
不足(2030円)	会計より補助

投句二題

夕闇にすくも焼く香の
煙一筋 照子

竹藪の夕日に映える
からすうり 知子

郷土研行事案内

平成12年10月~12月

史談会	10月 なし	11月 なし	12月 2日(土) 13:30 会議室 「千学集と妙見実録千集記」⑩ 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会	10月17日(火) 13:30 社会福祉協議会 「岡田家文書」	11月 なし	12月19日(火) 13:30 社会福祉協議会 「岡田家文書」
日帰り 見学会	11月8日(水) 「房州方面」 定員：45名 会費：6000円 申込受付 10月6日(金) 9:00~10:00 公民館ロビー 公民館出発 7:00 帰着 18:30 予定 キャンセル 実施日3日前までに青木朝次宅へ(☎ 公民館 — 佐倉I.C — 京葉道 — 館山道・市原PA — 木更津南I.C — 竹岡 — 有料道路 — 富山町 — 富浦 — 那古観音 — 館山城山博物館 — 館山(昼食) — 常楽山(釈迦 涅槃佛) — 丸山町・石堂寺 — 富浦 — 富山町 — 有料道路 — 竹岡 — 木更津南I.C — 市原PA — 館山道 — 東関HW 佐倉I.C — 公民館 (行程に一部変更の場合があります。)		
名勝探訪	12月6日(水) 「深川・木場方面」 雨天代替12月8日(金) 集合 京成酒々井駅 8:10 弁当・飲み物持参 京成酒々井駅 — 勝田台 — 東葉高速・勝田台 — 門前仲町 — 深川不動尊 — 富岡八幡 — 東京都現代美術館 — 霊巖寺(深川江戸資料館) — 清澄庭園 — 芭蕉庵跡 — 芭蕉記念館 — 森下駅 (都営新宿線) — 京成本八幡 — 京成酒々井駅 (行程に一部変更の場合があります。)		

あとがき

今年は何年にもなく長く暑い夏でした。また各地で水害や地震・噴火などの天災が起こつています。酒々井町でも過日電に襲われましたが初めての体験で本当に驚かされました。改めて天災の恐ろしさを感じました。郷土研も第四・四半期を迎え、さわやかな秋の行事を計画して、二十世紀最後の会報をお届けする運びとなりました。各種行事への皆様のご参加を心よりお待ちしております。

郷土研究会発足時から活躍されておられた加川治良さんが亡くなられたことを伺った時は本当に驚きました。千葉氏が佐賀から持ってきたといわれる「宝亀の鐘」の発見者の一人であり「日蓮宗」研究の権威でもありました。立派な先輩の意志を継いで研鑽に励みたいと思います。